

大学院での研究生生活を考える

日時 2016年6月25日(土) 14時30分～17時00分

場所 12号館地下第一会議室

講師 益田 直子氏(拓殖大学政経学部准教授 行政学、評価研究)

田尾 亮介氏(首都大学東京法学系准教授 行政法、財政法)

大学院での研究生生活とはどのようなものか、改めて考えてみたいと思います。講師は、立教大学大学院法学研究科と関係の深い気鋭の研究者です。新入生だけでなく、大学院在学学生、あるいは大学院進学希望の学部学生の参加も歓迎いたします。講演と質疑応答のあと、簡単な懇親会を行う予定です。ぜひこの機会に、大学院での研究のあり方について考えてみて下さい。(今年度入学・進学した学生は、原則として参加して下さい。)

<講師紹介>

○益田 直子(ますだ なおこ)氏

立教大学法学部卒業(在学中、比国アテネオ・デ・マニラ大学留学)後、旧海外経済協力基金に就職。組織統合、開発援助事業の審査等の業務を経たのち、政策評価・行政学を学ぶため、旧国際協力銀行(現国際協力機構)を退社し、東京大学大学院法学政治学研究科修士課程・博士課程に進学。在学中、客員研究員として米国ペンシルベニア州立大学大学院社会心理学研究科に留学。博士号取得後、官民交流人事の一環により政策評価専門家として総務省行政評価局に勤務。その後、千葉大学・大学院非常勤講師及び立教大学法学部特任准教授を経て現職。単著『アメリカ行政活動検査院—統治機構における評価機能の誕生』木鐸社、2010年。

○田尾亮介(たお りょうすけ)氏

東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。(一財)行政管理研究センター研究員、立教大学法学部法学科助教を経て現職。最近の論文、著作として「交渉・合意・協働」行政法研究 2号(2013)、「合意による行政の研究」(博士論文 2014)、「協議に関する手続」法律時報 87巻1号(2015)、「契約と行政行為の並存・交錯状況」宇賀克也=交告尚史編『現代行政法の構造と展開』(有斐閣 2016近刊)などがある。